

令和5年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立深伊沢小学校			
項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員の研究授業の実施 →学校アンケートによる検証 <p>2 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数の増加 →昨年度との比較 ・図書巡回指導員の活用 →全学年学期1回以上 <p>3 基礎学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活用(学習・読み聞かせ) →全学年3回以上(成果と課題) ・学校アンケートの「子どもは学校の勉強がわかっている」の結果が向上した。(81.2%→87.9%) ・学校アンケートの「基礎基本の力に効果がでている」の結果が向上した。(78.2%→90.1%) ・全学年が、巡回指導を活用した。また、図書の貸し出し冊数は、昨年の倍ほどに増加した。 ・学年によって回数はまちまちとなったが、有効的にボランティアを活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果は向上しているが、10%前後の不満足な回答を少しでも解消して欲しい。勉強嫌いにないように指導して欲しい。 ・より課題を明らかにするために、積極的肯定を指標にしてはどうか。 ・図書室が遠く利用しづらいが、貸出冊数増は喜ばしい。読書機会増は、基礎学力改善につながっている。 ・生きていく力をつけるため、外部講師の活用や教科外の活動も大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習や宿題の配信など基礎学力定着に向けた取組継続と合わせ、自信を持てるよう積極的にボランティアやIT、ドリルパークなどを取り入れ、個々に合わせた最適な学びを行う。 ・図書館の充実に加え、教科書教材の並行読書など学級での読書推進を進める。 ・今年度同様外部の人材を積極的に活用し、様々な体験や学びの機会をとる。 ・読むYOMUワーク・読み書きワークをより有効に活用できるような改善する。
ICTの活用	<p>1 ICTの授業での活用充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日1回以上学習に使用 →学校アンケートによる検証 <p>2 教員の活用力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用についての研修実施 →学期に1回以上 ・効果的なICT活用方法の公開 →学校アンケートによる検証(成果と課題) ・学校アンケートの「ICTを使ったわかりやすい授業」の結果が3%減少した。学年によって回答にばらつきが見られた。 ・ICT活用の研修会を3回実施した。 ・市内教員に向けて、効果的なICT活用方法についての授業を2月公開予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がわかりやすい方法で、わかりやすい授業を、先生方へお願いする。 ・子どもと保護者の満足度を指標にすることが望ましい。 ・黒板よりも見えにくい時もあり、子どもの様子を見てあげてほしい。 ・先生のレベルの一定化を目指す研修と、児童にネット社会の功罪を教えるカリキュラムを組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりわかりやすい授業にするためのICT活用研究を進め、同時に教員のICT活用能力を高める研修もさらに進める。 ・指標をアンケートによるものにしていく。 ・全学年でインターネットやSNSの使用についての学習をし、3年生以上では外部講師を招いての学習を行う。
長欠対策	<p>1 スクールカウンセラー、外部機関の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のカウンセリング時間の活用充実 →実際に保護者から聞き取り <p>2 支援会議の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者に寄り添った会議開催と内容の充実 →実際に保護者から聞き取り <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングを行った児童から「話を聞いてもらってよかった」保護者からは「役立った」「次回も受けたい」という声が上がっており、安心につながった。 ・15名の子どもについて支援会議を行った。保護者の思いに寄り添いながら支援方法を考えることができ、児童の安心につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の個性を理解し、保護者と連携して、丁寧に対応してもらっている。 ・運営協議会の場で議題に挙げる機会を持つていく。 ・学校は楽しいという満足度が高く、今後も外部機関などと連携して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童一人ひとりの個性を理解し、保護者と連携しながら対応していく。 ・次年度以降、運営協議会の議題にとりあげる。 ・学校が楽しくないと答えた児童一人ひとりを丁寧に見守っていく。
地域との協働	<p>1 FCE2023の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜開催し、地域(学校運営協議会)及びPTAと合同企画運営 →学校アンケートによる検証 <p>2 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA及び有志による環境整備作業の実施 →年4回以上(成果と課題) ・合同での企画運営でFCEを開催できた。児童にとっても良い経験となり、今後も継続していく予定。 ・PTAによる環境整備作業を4回行うことができた。 ・地域の有志による整備作業を、いくつかのグループにより数回行っていただいた。自立的な団体で、学校側の負担なく進めてくださることが大変ありがたい。今後ともいっしょを保っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び体験できるFCEはよかった。今後も地域の人の参加や、いろいろな対策など考えて計画していく必要がある。 ・運営協議会など、地域、保護者、学校がよく連携して、つながりを感じる。 ・ボランティアとして様々な活動に参加し、今後も地域協働、開かれた学校づくりをお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様に、学校・地域・保護者が協働し、よりよいFCEとなるように計画して開催する。 ・PTAとボランティアの皆さんの力をお借りし、子どもたちが安心安全に過ごせるよう学校環境の整備に取り組む。
特別人権教育	<p>1 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を認めあえる学級づくりと研修会の実施 →学校アンケートによる検証 <p>2 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修会実施 →学校アンケートによる検証(成果と課題) ・「子どもの生活を語る会」の研修会を2回実施した。学校アンケートで、「一人ひとりを認めあえる集団作り」が2%減少しており、保護者への啓発が必要である。 ・児童の発達の見方についての研修を実施した結果、子どもの特性を理解し、教職員間で支援方法について共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の個性を理解して対応していると感じる。 ・「楽しく学校へ行っている」「学校は楽しい」の満足度は高いが、そうでない回答者の思いを丁寧に拾ってほしい。 ・人権フォーラムで、子どもがしっかり発表できていて感心した。コロナ禍が開け、子どもの笑顔からも先生方の指導を感じる。今後ともきめ細かく児童に對峙してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童一人ひとりを大切にしたい人権の守られる学校となるよう、学級づくりや研修に取り組む。 ・人権フォーラムがより子どもたちの実態に即したものであるよう企画し、計画的に進める。
学校経営	<p>1 学校からの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回以上「学校だより」の発行 →学校アンケートによる検証 <p>2 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月3回定時退校日の設定 →勤務状況調査の結果(成果と課題) ・月2回以上「学校だより」を発行できた。学校アンケート「学校は教育方針等を分かりやすく伝えている」の肯定回答が97.7%となった。 ・定時退校日の月3回設定はほぼ達成できた。また、退校もほぼ100%で達成できた。 ・本年度は校時を変更したことで、放課後の時間を生み出すことができた。(週90分増)それにより、会議を早く始めたり、残務処理の時間に充てたりすることができた。 ・時間外労働時間は、昨年度と比べて微増している。(月差1.9時間)コロナ禍が明けたことで、様々な行事や取り組みが復活したことが影響していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の「満足できる」割合が高くなっていて、評価に値する。今後ともきめ細かな情報発信をお願いする。 ・コロナ禍、熱中症などの状況でも、様々な学校行事が実施されたことに敬意を表する。 ・コロナ禍が開けたので、ボランティア活動参加への周知に、努力が必要。 ・働き方改革は、指導内容の多様化もあり、先生方の健康第1でお願いしたい。省けるところは省く、職員増なども必要 ・児童アンケートの項目が多く精査が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子や学校の取組を知って理解していただけるように、今年度同様学校だよりや学級だよりを積極的に発行していく。 ・子どもたちへのよりよい指導のために、会議時間の見直しや業務でのICT機器の活用などをさらに進める。 ・児童アンケートの項目を見直す。